

資料 1

府中市美術館運営協議会（第1回～3回）審議内容

1 諮問事項 地域における府中市美術館の運営のあり方について

2 審議における意見・要望等

（1）普及事業

- ① 普及関係は、ミュージアムコンサートのような来館するきっかけとなるようなものや、講演会、講座、ワークショップ、ティーンズスタジオ等がある。
- ② 土曜工房は、100円から200円の参加費で子どもたちが参加でき、親も付添いで一緒に来館するので、素晴らしい企画と考える。
- ③ 受益者負担も必要である。どこの範囲であるかを周知した方がよい。
- ④ ティーンズスタジオのプログラムは素晴らしい企画で、子どもたちの参加が多く、プログラム自体も小学生の子どもたちが自ら作りたくなるような工夫をされていて良い。
- ⑤ 体験を通して美術館を知る良い機会となり、生徒たちにも勧めることができた。おもしろいことはやってみたいことにつながり、もう一度美術館に足を運ぶようになる。
- ⑥ 小中学生への教育普及活動においては、美術館と学校とが連携して地道に活動を続けていくことで、10年スパンで効果を期待したい。
- ⑦ 府中市では、小学校と中学校、図工と美術が連携したシステムが作られており、これは他の市にはない非常にいい状況である。中学生ともなると、部活・塾などで日々忙しくなり、小学生のようにまとまって来ることはむずかしくなってくる。夏休みに自分で行って自由に鑑賞する。年齢に応じたリーフレットを作成するなど、対応がとれている。
- ⑧ 中学1年生が来館する「夏休みの企画展」については、内容を考慮していただきたい。
- ⑨ 鑑賞教室などを通して、美術館とはこんなに素晴らしいものであると体験してもらい、心に残るものにしていきたい。

（2）子ども対象

- ① 美術館に来てよかったと思う子は再度来館し、つながっていくものと思う。「生活と美術」とは、地域の人がいつでも通える美術館でもある。
- ② 子どもは、18歳未満を無料にするなど、ふれあう機会をふやすなどしてほしい。
- ③ 子ども達はどの位満足しているのか、効果は、まだまだ疑問符がつくかと。時間をうまく利用し、低学年の子ども達や幼稚園・保育園の子ども達向けにも触れ合う機会を作ってはどうか。
- ④ こんなにたくさんの子どもたちが来ている美術館は、他にはないのではないかと思う。公開制作など、作家と触れ合う場があると言うことは、

作家の立場からしても衝撃的であり、特に夏休みは、子どもたちが本当にたくさん来ている。

- ⑤ 小学生は「学びのパスポート」を持っているが、やはり親と一緒にないと行けない年齢なので、保護者も取り込んだ方がよい。

(3) 障害者・高齢者

- ① 障害の持った人でも、どんな人でも、一人でも二人でも多くの人に美術館に来て感動してほしいと思っており、気楽に来られる方法、交通機関など、広報・宣伝については、力を入れていただきたい。
- ② 老人ホームや施設の方が職員や介添えの方に付き添われて、車椅子などで来られることが多く見られ、活動のプログラムに組み込まれているように思われる。

(4) ワークショップ

- ① ワークショップは年間12本あり、夏休みの企画や公開制作作家などに講師を依頼したり、企画展に沿ったものなど数多く企画しており、かなり多様性のあるものになっている。開館当初より開催している人気のある企画で、無料のものから材料費程度の数百円程度を負担のものがある。1本の企画で、数回行なうものもあり、大変良い。

(5) サポートスタッフ（美術館ボランティア）

- ① パレットと言う広報誌の作成に携わったり、ティーンスタジオの手伝いや、ベンチ塗り、花壇作り、チラシやポスター配り、また車椅子での来館者のための補助などの活動をしている。また、ボランティア育成のため年2回の研修やサポートスタッフ・ミーティングなどを行い充実を図っている。

(6) 広報

- ① 魅力ある美術館を宣伝し、ひとりでも多くの人に知ってもらいたい。引きつける魅力ある宣伝・広報にもっと力を入れてほしい。
間接宣伝はお金もかからず一番の効果がある。
- ② レベルの高い人が共感するだけではなく、一般市民に興味を持たせるようなタイトル、キャッチフレーズを付けた方がよい。宣伝の仕方一つで大きく変化する。
- ③ 広告を見て、なんだかわからないポスターやチラシではなく、すばらしいと感動するわかりやすいものが必要であり、併わせて、交通手段の確立や、そのピーアールが必要である。。
- ④ 美術館のチラシやポスターは、確かにわかりにくいと感じる。文字が小さい。何を書いてあるのかわからない。訴え方、表現の仕方があるのではないか。
- ⑤ 他の美術館からも、個性的な展覧会をやっていて頑張っている！と話題性はあるようで、市民に届いていないのが残念。

(7) 開館日等

- ① 「無料の日」を増やしたらどうか。魅力がないと言われているが、まずは行ってみたいと思えるように工夫してもらいたい。
- ② 開館時間を延ばす等、より柔軟な美術館の運営を考えるべきではないか。

(8) 地域の中の美術館

- ① 美しいものの見かた、地域に開かれた美術館、美術館に行かないと美しいものが見られないというのはおかしいと思う。日々の生活の中にもあるし、ただ美術館ができることは、枠組みを作って見に来てもらい、美しいものの見方、違った美しさの多様性等を、市民や一般の方たちにお膳立てし、アクセスすることのお手伝いをする場であってほしい。
- ② 美術館に行き、小さい時から美しいものに出会い、先生や、デザイナー、学芸員など連携しスキルアップし、子どもたちがその感性を大切にできるよう何かしたいと思ってる。
- ③ 府中にあるべく、府中の作家、府中に住んでいる人の作品を見せるとか、市民の作品の発表の場にするなど地域に開かれた美術館であってほしいと思う。
- ④ 府中市は芸術文化に親しみ、子どもを育てやすいところだとの認識が高い。まずは、学校で強制的にでも連れて来るということでもいい、ここに美術館があるということが地域の誇りとなる。
- ⑤ 地域性を重要視することは、地域にゆかりのある作家の展示ではなく、「上野まで行かなくても優れた美術作品が、ここ府中で見られる。」と言うように、優れた作品を地域の人々に展示することだと思う。
- ⑥ 地域に密着した美術館とはどのようなものか。また、生活と美術とは、美術と結びついた暮らしであると思うが、府中市美術館のイメージがつかめない。
- ⑦ 市立美術館のテーマとしては、「生活と美術」はよいのではないか。気軽に入っていける間口を作っていく、さらに周知することが大切である。
- ⑧ なぜ、美術館に来ないか、来にくいのか、と考えた時、ポツンとある、駅から離れているなどがあげられるのではないか。何かをしながら美術館にたどりつくといったようなルートができると更に良い。
- ⑨ 誰でも来たいと思えるような敷居の低い美術館であればよい。
- ⑩ 子どもたちに、1点でもいい。好きな作品を見つけるようにと説明していた学芸員の言葉が印象に残る。この恵まれた環境を、大人が活かしていかななくてはならない。

(10) 企画展

- ① 市民が望む企画展や展覧会を開催してほしい。
- ② 現状の枠組みにあてはめるだけではなく、わかりやすく、親しみのもてるものを選んでほしい。
- ③ 一つの大きな展覧会があると、そこに集中して、来館数は飛び抜けて

多くなる。反対に地道で目立たないが、よい企画もたくさんある。どのような視点から、どのような企画を選んでいくのかが、重要なことである。

- ④ 地域性を重視した企画には魅力を感じない。映画であるとか、連続講座であるとか、よりさまざまな企画を行い、スペースをもっと利用し美術にふれる機会を増やすことはできるのではないか。
- ⑤ タイトルしだいで入場者は増える。タイトルのつけ方は、どう心をつかむか、見てくださる方の感動をどう呼ぶかである。マーケティングをして、全ての展覧会に市民を巻き込む手立て、企画を考える。市民グループによる仕組み作りが必要と思う。
- ⑥ 小学校の場合、「企画を見て、行ってみて、よかったよ」からまわりに広がる。口コミで広がることが多いので、身近にある題材を取り上げてほしい。実際には、子どもの展覧会などで市民ギャラリーを見に行っても企画展までは行かない。
- ⑦ 難しい企画、イメージを膨らませないとわからないような企画が多い。説明（解説）が非常に難しい。やさしく目に入り、頭の中に入る企画をしてほしい。
- ⑧ 印象に残る展示、思い出に残る展示とは、五感に訴える、勇気をもらうことだと思う。物の見せ方、展示の仕方で印象が異なる。

(11) 運営

- ① 最近の傾向として、展覧会を個人名でアピールするのが今の時代であり、アピールする現代的なタイトルを付けて、もしくは付けられる企画を選び、10年目、11年目につなげていくことが必要と思われる。
- ② 10年経つと美術品収集の予算も削られるようになり、10年目以降は様々な面で制約が出てくる。今まで守ってきた古いものから、枠を飛び越えた新しい企画、活動へ出て行く時期と言える。今まで築いたアカデミックな活動を、これからは柔軟に発展させていくことが必要と思う。
- ③ テレビでいう視聴率と美術館のそれとは違うと思う。アートは楽しいものであり、見た人が感動して、刺激されて、私も何か作りたいと思うものである。敷居が高くて、誰もが来られる場所で、「自分もできるんだ」という気持ちがクリエイターとして発展していく。府中市美術館として、一貫したテーマを作り上げていくことが必要と思う。